

ダーチャ・マライーニの来日成功のため御支援をお願いします。

ダーチャ・マライーニを日本に迎える会



荻野富士夫（小樽商科大学名誉教授）
小坂洋右（ノンフィクション作家）
酒井泰俊（曹洞宗広済寺住職）
指方信平（札幌北光教会牧師）
福原恵美（宮澤弘幸さん姪）
藤田正一（北海道大学名誉教授、元副学長）
望月紀子（イタリア文学者・翻訳家）
北海道日伊協会
ビー・アンビシャス9条の会・北海道（共同代表 梅津徹郎）
宮澤・レーン事件を考える会（代表幹事 唐渡興宣）

ダーチャ・マライーニはノーベル文学賞候補に挙がる高名なイタリアの作家です。戦時中札幌、京都、名古屋で様々な体験をして生き抜きました。そんなダーチャの話聞き、平和の問題を考えたいと今年6月に日本に招くことになりました。

ダーチャは1938年2歳の時に、アイヌ文化研究のため北海道大学に来た父フォスコ・マライーニとともに来札しました。一家は英語教師レーン夫妻らが住む外国人教師官舎に暮らしました。

当時、戦争前夜にもかかわらず外国人教師官舎では「心の会」が発会し、外国人教師と向学心あふれる学生たちが国籍、立場を超えて人間的な信頼を育んでいました。

「心の会」のメンバーであった宮澤弘幸とマライーニは、旅行、登山、スキーなどを共にし、友情を深めました。しかし1941年12月8日、レーン夫妻と宮澤弘幸が軍機保護法違反で検挙され、冤罪にもかかわらず重刑が科せられました（宮澤・レーン事件）。宮澤は拷問と厳しい監獄生活で結核に罹患、終戦後釈放されますが、1947年27歳の生涯を閉じました。

1941年フォスコ・マライーニは京大でイタリア語講師になりますが、イタリアが連合国に降伏すると、マライーニ一家は「敵国人」となり、名古屋の強制収容所に収監され、死と隣り合わせの厳しい生活を余儀なくされました。終戦後1946年、一家はイタリアへ帰国しました。

帰国後、フォスコ・マライーニは日伊の交流に多大な貢献をし、長女のダーチャ・マライーニは主にフェミニズムや反ファシズムに焦点をあてた作品で知られ、日本では12冊が翻訳されています。

昨年秋には『Vita Mia（わが人生）』を上梓しました。その中で自らの戦争体験を語ることは辛く苦しいことで、日本での経験を今まで語ることはなかったのですが、「世界中に、あらゆる形の暴力と憎悪が再び溢れる今、それを証言しなければならないと思ったのです。そして自分の原点は日本でのさまざまな体験です。」と語っています。

ダーチャは東京、名古屋、札幌と思い出深い地を訪ねます。東京では宮澤弘幸の墓参りと交流会、東京、名古屋では幼馴染との再会、札幌では写真展、講演会などを予定しています。

ダーチャの来日は、戦争のない平和な国際世界、自由と人権が守られる社会を築く上でかけがえのない寄与をしてくれるだろうと確信します。

ダーチャ来日成功のために皆さまのご賛同と資金面のご協力をお願いいたします。

ダーチャの来日日程と募金方法については裏面にあります。

事務局・会計は宮澤・レーン事件を考える会が担当します。



ダーチャ
3歳の誕生会
右の三人はレーン家の姉妹



フォスコ・マラーニと宮澤弘幸



1941年京都嵐山にてマラーニ、ダーチャと、弘幸

<ダーチャ来日日程 予定>

月日	曜日	時刻及び行動予定	宿泊地
6月11日	火	ローマ⇒羽田 10:40着	東京
6月12日	水	新宿常圓寺墓参 歓迎交流会	東京宿
6月13日	木	東京⇒名古屋	名古屋
6月14日	金	豊田市 廣濟寺へ	名古屋
6月15日	土	名古屋⇒札幌	札幌
6月16日	日	講演会、歓迎夕食会	札幌
6月17日	月	北海道大学訪問、北大散策（官舎跡地、他）	札幌
6月18日	火	マラーニ家の写真展見学	札幌
6月19日	水	札幌⇒東京	東京
6月20日	木	羽田 12:40発 ローマ 20:25着	

ダーチャ・マラーニを日本に迎えるための寄付申し込み

ダーチャ来日に係る諸経費として200万円ほど必要と考えております。皆様には何かと出費のかさむ昨今ではございますが、是非とも趣旨をご理解いただき、募金へのご協力をお願いいたします。

募金 個人は一口2000円、団体は一口5000円です。複数口でのご協力をお願いいたします。

○募金の振込先

・郵便振替口座番号 02700-3-104166
加入者名 唐渡興宣

・他行から振り込まれる場合
店名（店番）二七九（ニナナキュウ）店（279）当座 0104166

※お問合せは 携帯番号：090-1527-9009（奥井） FAX：011-521-3540（奥井）
E-mail：maradacia2024@gmail.com